

## 老朽原発うごかすな！大集会 in おおさか 1600人が結集し原発反対の大行動！

集会には12時頃から続々と参加者が集まった。「脱原発北摂」のニュースも久しぶりに配布した。コロナ禍で参加者も限られると予想して300枚で充分かと思っていたら、圧倒的に枚数が不足し、最終的には主催者発表で1600人となった。久しぶりの集会でもあったので多くの団体がチラシを配布し入場口には長い列が出来た。

大阪での新型コロナの拡大に対する警戒から、地方の団体からは直接参加を止め音声での参加に切り替えられるなど、まだまだコロナ禍の大きな影響があった。

集会は14時半まで時間を惜しんで運営された。主催者関連団体、福井で闘う諸組織からの報告と闘いの呼びかけ。原発賠償関西訴訟団原告からの訴えが行なわれた。



### 関電の老朽原発再稼働を許すな

そして、全国各地で闘う仲間からの挨拶が行なわれ、そして関西の市民団体、労働組合からの挨拶が行なわれた。集会の最後に決議が読み上げられて、会場全体の拍手で確認された。「本日の大阪大集会を基点に、原発立地・周辺地域と大電力消費地を結ぶ、裾野の広い大きな運動を創り上げ、老朽原発再稼働を阻止し、原発全廃を勝ち取り、人の命と尊厳が大切にされる社会を展望したいと考えます。」

集会の後、うつぼ公園から御堂筋を通過してなんばまでデモ行進が展開された。

## 「国相手の大飯原発止めよう裁判」結審 判決は12月4日に決定

9月16日13時30分から大阪地裁202号法廷で「第36回法廷」が開催された。事前打合せで「結審」が予想されていたので多くの支援者が傍聴に参加した。

法廷には、被告側の国と関西電力が「被告第34準備書面」を提出。それに対する原告側の「準備書面(38)」が提出された。そして武村弁護士と谷弁護士から「準備書面」の内容説明＝被告側の「準備書面」批判が行なわれた。これでもって、裁判は「結審」となり、予想以上に早い「12月4日午後3時から判決」となった。

### 勝利への確信を秘めながら「報告・交流会」

法廷終了後に、「報告・交流会」が開かれた。裁判を支えてきた多くの支援者が参加した。

冠木弁護士から、争点を「地震動」に限定したこともあり早い判決となった。審理は「勝ち筋」の見える中での結審であり、非常に期待している。今日の審理では武村弁護士と谷弁護士の論述が非常に説得的であった。との報告があり、引き続いて2人の弁護士の報告が行われた。

交流会では、原告団の島田さんから、「判決の中で『たしかさ』と『バラツキ』が文書化されたら、それは大きな意味がある」「本訴以来8年間、原告団、弁護団、支援者の大きな成果だ」との発言があった。



## 地震規模の「ばらつき」考慮＝国相手の大飯原発止めよう裁判の焦点

「大飯原発運転差止の行政訴訟」の8年間の審理の中で、地震動問題で、「入倉・三宅式」の有する「ばらつき」の評価が中心的で明確な争点となってきた。本年1月30日に裁判長は国に対して「『ばらつき』を考慮するようにとの指摘を行ない、被告は準備書面を提出した。」

大飯原発の基準地震動の基になる地震規模を考慮する場合、従来のデータの平均値でなく「ばらつき」を配慮して標準偏差を考慮すべきである。そのことは政府の「地震動審査ガイド」に明記されている。

これに対し、国の準備書面は「ばらつき」を考慮すべきことは認めながら、現行の最大加速度は平均値そのものでなく「不確かさ」を配慮しているため、「不確かさ」を考慮せずに「ばらつき」だけを考慮するより大きいとして

影響はないとしている。被告側は「不確かさ」と「ばらつき」の両方を考慮する必要はないという態度である。

「地震動審査ガイド」ではこの2つは明確に区別され、「ばらつき」は震源における予想式に幅を持たせる考えであり、「不確かさ」は地震動の伝播過程に関する考慮から来ており、独立したものである。それゆえ、標準偏差を考慮して、重ねて不確かさを考慮すべきである。

### 大飯3号機スプレインの亀裂の危険性

集会の最後に、大飯3号機の定期検査で「加圧器スプレイン」亀裂が生じていることが報告された。関電は運転の継続(13ヶ月)を主張した。1次冷却系統につながる157気圧のラインであり、運転の継続は危険であり、運転再開を中止すべきである。規制庁に抗議と要望書を提出。

# 反差別の種 あなたの心にも

大坂なおみさんインタビュー



テニスの全米オープンで9月12日に2年ぶりの優勝を果たした大坂なおみ選手は、大会を通じて人種差別への抗議を続けた。米国で黒人が警察官らの行為によって命を落とす事件が相次ぐ中で、7人の犠牲者の名前が記されたマスクを用意して参加した。大坂さんは「レイシストでないというだけでは十分ではない。私たちは反レイシストにならねばならない」として、事件の現場を訪れ、運動への参加と協力を呼びかけた。優勝後の記者会見では「あなたがどんなメッセージを受け取ったのか。それがもっと大事です」と人々自らが運動することを訴えた。



## 東電業務上過失致死控訴趣旨書(9/12 朝日)

福島第一原発事故の経営責任をめぐり、業務上過失致死傷罪で強制起訴された旧経営陣3人に東京地裁は昨年9月に無罪判決を行った。検察官役の指定弁護士が、11日に控訴趣意書を東京高裁に提出した。そのなかで、1審に反論し、①国の地震予測「長期評価」は十分な科学的根拠がある、②具体的な防護措置を講じれば事故は避けられた、③東電の経営責任者は方が一にも重大事故を起してはならない、④事故を防ぐ手段は運転停止だけでない」と主張し旧経営陣の、事故責任を主張した。

## 北海道神恵内村も各処理場検討(9/3 朝日)

8月に応募検討を表明した寿都町に続き、同じ地域の神恵内村の商工会が応募を目指す請願を村議会に出した。人口減と地域経済への不安を抱え、処分場が生む雇用や交付金への期待がある。一方不安を募らせる住民も多い。神恵内村は泊原発の近傍で、交付金を受けている。北海道では「核のゴミは受け入れがたい」との道条例が2000年に制定されているが、文献調査の第1段階は可能との経産省の判断である。

## 三池闘争 60年シンポジウム in 関西



10月17日(土)の朝10時から夕方5時半まで、阿倍野区民センター小ホールで、実行委員会主催で、上記集会在開催される。(080-5309-1536)炭じん爆発と高次能機能障害、今に続く闘いを報告する。映画「ひだるか」も上映する。

## 神戸で「無言館」特別展(9/12-11/29)

長野県上田の美術館「無言館」は、戦争で死亡した画学生たちの作品を収集・展示する施設である。

本展は今年が戦後75年の節目として、同館が普段陳列していない約130点の絵画・彫刻を、「望郷」「家族」「自我」「恋」「夢」で構成して紹介する。神戸出身者も。場所:神戸ゆかりの美術館 JR「住吉」、阪神「魚崎」 六甲ライナー「アイランドセンター」



# 安倍首相の政権投げ出し、アベノミクスの目玉「原発輸出」が総て破綻！ 日立製作所 ついに英アングルシー原発撤退を表明

日立製作所は昨年1月に凍結を表明していた英国での原子力発電所の建設計画について、16日に撤退することを発表した。ウェールズのウィルファアの2基の原発建設計画は英国政府と安倍政権が後押ししていた。

一部には計画再開への期待もあったが、安倍首相の引退という好機を捉え、日立製作所は今回の撤退表明によって、リスクの大きい原発建設計画から身を引くこととした。日立は事業の売却や新たな出資先を探っていたが、新型ウイルス禍の影響もあり断念した。日立製作所は原発の建設・運営の事業から撤退するが、原発設備の販売は継続する予定。



アングルシー原発予想図

## 崩れつつある原発のサプライチェーン

日本での原発の新設計画が動かず、海外での原発建設も総崩れのなかで、発電機器などを担う国内企業のサプライチェーンは既に崩れつつある。大手電力会社の担当者は「技術や人材の基盤を国内で育てるのはもう難しい」と語る。日立は国内の原発事業で19年に東京電力、中部電力、東芝と共同事業化に向けた

検討で基本合意したが、先行きは見えない。

## 安倍政権のアベノミクスの目玉＝原発輸出の崩壊

福島原発事故で世界的に原発への不安が高まる中でも政府は「事故の教訓を生かして世界の原発の安全強化に貢献する」と理屈をつけて輸出政策を継続し、安倍政権になると、原発輸出はアベノミクスの基幹となった。

しかし東芝はアメリカでの建設の遅れで損失が拡大、撤退も遅れたため1兆円を超える巨額の損失で経営危機となった。リトアニアでは日本主導の原発計画を国民投票で否決。ベトナムも日本への発注を白紙撤回した。安倍首相がエルドアン首相へのトップセールスで三菱重工が受注を決めたトルコの計画についても、事業費が膨らんで継続は困難な情勢。そして今回は日立が英国撤退。

日本の原発輸出はすべて撤退となった。問題は海外輸出だけでなく、国内でも原発が経済的にも技術的にも破綻しつつあるということである。

